

**「CSと地域学校協働活動の一体的推進」を活用して ～地域とともにある学校づくり研修会～**

8月1日（木）「授業の充実と働き方改革」をテーマに、地域とともにある学校づくり研修会を開催しました。

地域学校協働活動推進員（高楯中学校）の安孫子真澄氏から「たかだて吹奏楽クラブの実践」について、千歳小学校校長の富樫朗氏から「地域とともにある学校づくり」について、第七小学校校長の原田健男氏から「地域との連携・協働活動で学校の諸課題解決へのアプローチを～読み聞かせ活動の復活の取組みから～」について、とても魅力的な取組をお話しいただきました。

事例紹介の後、参加者は事例ごとに3つのグループに分かれ、発表者との質疑応答や意見交換、情報交換を行いました。グループのファシリテーションは山形市立南小学校教諭の小野拓氏と山形市立東小学校教諭の向田阿喜氏、社会教育青少年課の指導主事・社会教育主事が行いました。

参加者にとって「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」の意義や必要性について改めて確認し、授業をはじめとした教育活動の充実や働き方改革への効果について考える機会となったのではないかと思います。

【参加者アンケートより】

- 学校と地域が分かり合うためには対話が必要だと思う。
- 地域住民が気軽に学校にお茶を飲みに来ることができるような関係ができればいいと思う。
- 教員の人手不足があり学校では働き方改革が進む中で、CSや地協がより求められていくと思った。
- 地域とつながるのが目的ではなく、地域とつながることで子どもに地域にどのような力が身につくのかということが重要だと感じた。
- 地域の特色を生かした取組みが重要であることを感じた。
- 「地域と学校が win-win の関係になることが大切」「大人と子どももわくわくしている」「地域には、何かやりたい、楽しいことをしたいという大人がたくさんいる」という言葉が心に残った。
- 子どもがふるさとで育ち、将来ふるさとを創っていくと考えると、地域とのつながり（自分たちがしてもらったこと）は心に残り、未来の発展にもつながっていくと思いました。

放課後等の子どもたちの学びの場づくり ～山形市放課後子ども教室～

放課後子ども教室とは「放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して全ての子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域と学校が連携・協働して学習や様々な体験・交流活動の機会を定期的・継続的に提供する放課後等支援活動」のことです。

今年度、山形市では市内全小学校全児童を対象として公民館やコミュニティセンターを会場に、全8日の放課後子ども教室「ベニっこアフタースクール」を実施します。

子どもたちに教室を運営し、子どもたちを支援するのは「協働活動支援員」です。10代の協働活動支援員も活躍しています。また、中学生や高校生、大学生がボランティアとして参加しています。さらに、会場近隣に住んでいる地域住民が子どもたちの活動をサポートしたり、一緒に活動を楽しんだりしています。地域住民を募るのは学校と地域をつなぐコーディネーター、「地域学校協働活動推進員」です。そして、「その道のプロ」が講師として子どもたちの学びを支えます。このように、放課後子ども教室ではたくさんの大人がつながって、「放課後等の子どもたちの学びの場」をつくっています。

【ベニっこアフタースクール今後の実施予定】

9月28日（土）「動物とのふれあい教室（いのちの学習）」	東沢コミュニティセンター
10月26日（土）「紙コップアート教室（造形）」	本沢コミュニティセンター
11月16日（土）「紙コップアート教室（造形）」	楯山コミュニティセンター